主催者からのメッセージ

国連「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤの１０年）」が２００５年から展開され，最終年の２０１４年には愛知・名古屋で「ＥＳＤユネスコ世界会議」が開催されました。世界会議終了後も，これまでのＥＳＤの成果をより発展させ，引き続き持続可能な社会の実現に向けて問題意識を高めていくことが期待されています。
私たちが暮らす現代は，少子高齢化を迎えながらも，今後も益々技術開発は進み，より便利で快適な生活を求め社会は発展してゆく中で，それに伴う新たな課題が出てくることも予想されます．
そこで本講座では、私たちが発展を続け，尚且つこの先の世代にも暮らしやすい環境を引き継ぐための最も基礎的な課題について，「生活の安全安心」「生活資材」「水と食料」「疾病予防」などの分野を入り口に“地球の使い方”について考え，持続可能な地球社会の実現について考察してゆきます．

＊更に詳しい講義シラバスは中頁をご覧ください!

	開催日	講義タイトル	講師
第1回	4/14	持続可能な地球社会:問題提起	村田　静昭
第2回	4/21	生活世界における人間の安全保障: イスラームフォビアを超えて	鈴木　規夫
第3回	4/28	生活の質とリスク:持続性ある生活資材の生産・ 供給と使用法:リスク回避と生活資材の質確保①	村田　静昭
第4･5回	5/12 5/19	人口減少下におけるまちづくりの潮流を探る: 市街地形態･景観と地域資源･主体など	井澤　知旦
第6･7回	5/26 6/2	持情報マネジメントと持続可能な組織: システム思考によるアプローチ	栗本　英和 長尾　征洋
第8･9回	6/9 6/16	生活の質とリスク　持続性ある生活資材の生産・ 供給と使用法:リスク回避と生活資材の質確保②③	村田　静昭
第10･11回	6/23 6/30	少子高齢社会の疾病対策	津下　一代
第12･13回	7/7 7/14	健康長寿と「攻めの栄養学」:抗酸化食品を中心に	大澤　俊彦
第14･15回	7/21 7/28	健康寿命の延伸:持続可能な高齢社会を目指して	下方　浩史

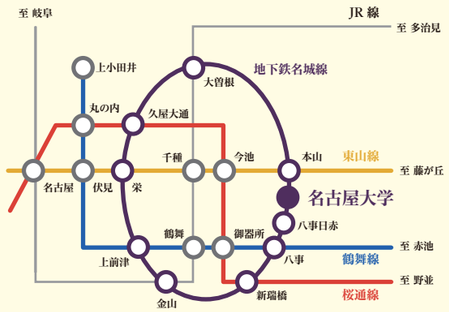
■申し込み方法

愛知学長懇話会ウェブサイトより受講申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記事務局宛にEmail、Fax、または郵送でお送りください。

※併せて、受講料として 5,000 円を下記口座へお振り込み下さい

＊＊＊＊＊受講料振込先＊＊＊＊＊
三菱東京 UFJ 銀行今池支店（263）
普通　0074011
口座名：「愛知学長懇話会」
（アイチガクチョウコンワカイ）
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

会場:名古屋大学内　環境総合館レクチャーホール



会場へのアクセス

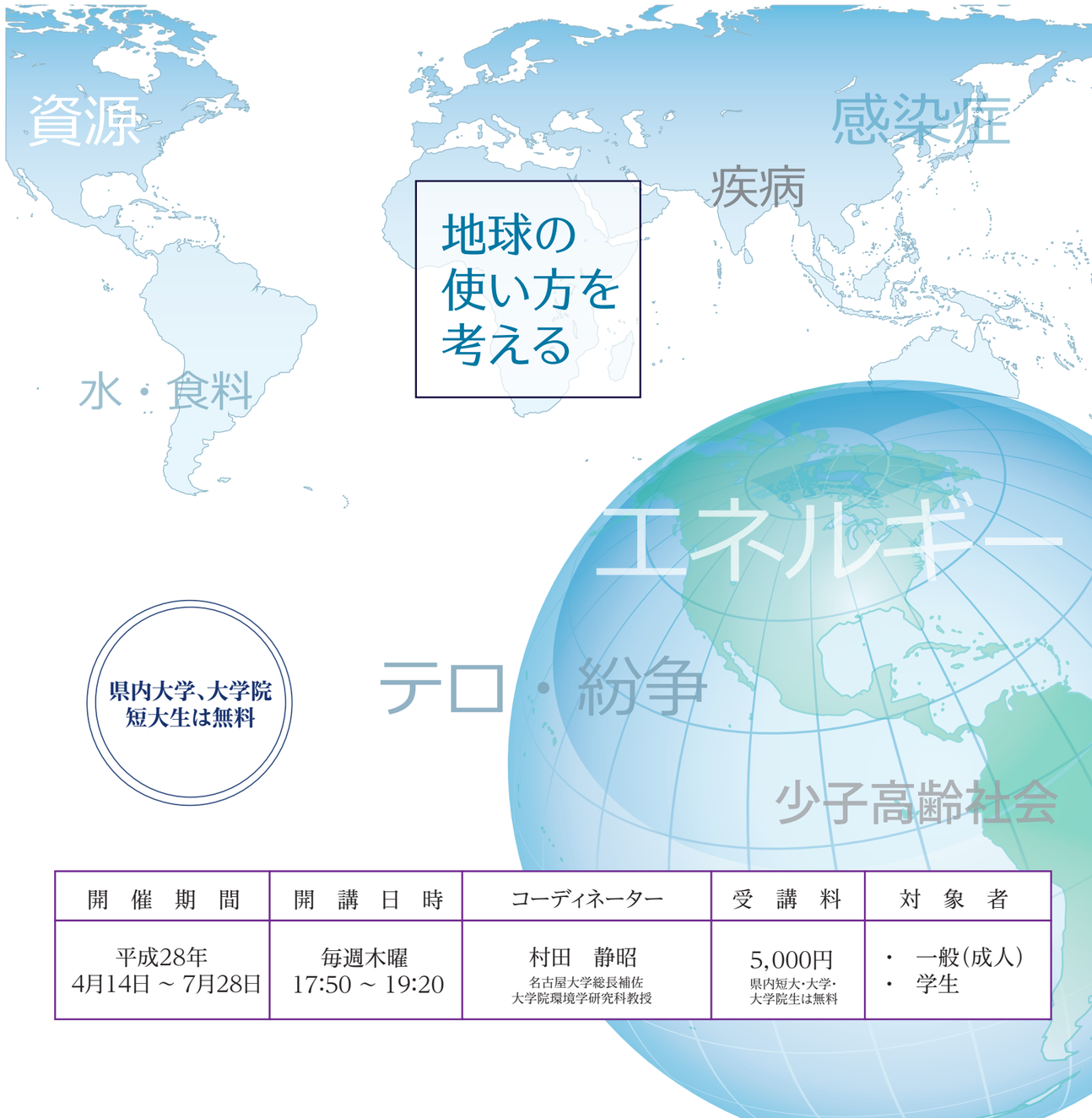
地下鉄名城線『名古屋大学』駅下車。２番出口より前方に進む。郵便局の前を通過し、一つ目の交差点を右折。最初の曲がり角を左折し、そのまま突き当りまで進み、右折。右手の建物が環境総合館です。

愛知学長懇話会事務局

URL：http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp　E-mail：gakuchou@adm.nagoya-u.ac.jp
〒464-8601 名古屋市千種区不老町（名古屋大学総務部内）　TEL：052-747-6587　FAX：052-789-2019

愛知学長懇話会 ＆ なごや環境大学 共育講座
（平成28年度･前期）

持続可能な地球社会 Ⅰ



**県内大学、大学院
短大生は無料**

開催期間	開講日時	コーディネーター	受講料	対象者
平成28年 4月14日 ~ 7月28日	毎週木曜 17:50 ~ 19:20	村田　静昭 名古屋大学総長補佐 大学院環境学研究科教授	5,000円 県内短大･大学･ 大学院生は無料	・一般(成人) ・学生

1 持続可能な地球社会：問題提起

村田　静昭
(名古屋大学総長補佐，大学院環境学研究科教授)

現代は、文化や価値の多様化に伴って生活の環境についても様々な評価の視点が考えられる。本講義では、私たちの生活の場である社会と都市、生活を維持するための資材と情報、疾病予防について取り上げる。開講に先立って、受講生諸氏が「大切に守っていきたい」あるいは「改善を図っていきたい」と考えている身近な生活を支える環境とそこにあるリスクについて討論する。受講生諸氏には、これらのテーマについて数分間の意見発表をしてもらうので事前に考えておいていただきたい。

2 生活世界における人間の安全保障：イスラームフォビアを超えて

鈴木　規夫
(愛知大学国際コミュニケーション学部教授)

日常生活において安全安心の担保とされるさまざまな事象のうち、やはり人間と人間との関係をめぐる紐れは、最も厄介な問題です。とりわけ、「われわれ」ではない「かれら」への感覚をコントロールし、紛争や戦争を回避するには、想像力が必要欠くべからざるものとなります。
そこで、講義では、現代世界を席巻しているイスラームフォビア（イスラーム嫌い）をめぐる問題を取り上げ、その生成、展開、消滅への想像力についてお話しする予定です。

3 生活の質とリスク：持続性ある生活資材の生産・供給と使用法：リスク回避と生活資材の質確保①

村田　静昭
(名古屋大学総長補佐，大学院環境学研究科教授)

1年ほど前までは資源やエネルギーの供給不足や高騰が私たちの未来に影を濃く落していたが、世界的な経済の後退に遇って今や危機感が薄らいだ感がある。
資源枯渇に向けてのこれまでの努力をここで一旦見直して、生活の質の向上を図りながら原油を原料に用いた生活資材を持続的に供給することを考える。

4 人口減少下におけるまちづくりの潮流を探る：市街地形態・景観と地域資源・主体など

井澤　知旦(名古屋学院大学現代社会学部教授)

直近の国勢調査（戦争混乱期を除く）で、初めて人口減に転じた。これまでは人口も経済も「右肩上がり」で拡大することが目標であったが、少子高齢化を伴う人口減少下では、大きく施策が変化する。膨張市街地の再編（都市のたたみ方）にむけて、コンパクトシティ化や空き家対策などが求められ、さらに、これからのまちづくりの素材として、景観等の地域資源、そしてまちづくりの担い手、について具体の事例を挙げながら考えていく。

【参考図書】

饗庭伸「都市をたたむ」花伝社2015.12／松谷明彦「東京劣化」PHP研究所

5 情報マネジメントと持続可能な組織：システム思考によるアプローチ

栗本　英和（名古屋大学教養教育院教授）
長尾　征洋（名古屋大学大学院環境学研究科講師）

見方や考え方が異なる，多様な価値観をもった人々の集合体を，コミュニケーションの手法やICT技術を利用して，社会や環境の変化に適合できるような，学習できるチームや組織にしているのかを解説する。その基本概念や基本知識を実例やミニ・ワークショップを通して学ぶ。

【参考図書】

「システム・シンキング」もしくは「システム思考」と題する書籍等

6 生活の質とリスク　持続性ある生活資材の生産・供給と使用法：リスク回避と生活資材の質確保②③

村田　静昭
(名古屋大学総長補佐，大学院環境学研究科教授)

PCBやダイオキシンが今どうなっているのか。 20年ほど前に環境ホルモンとして社会的な関心が高まっていた内分泌かく乱物質について最近の状況を解説する。私たちの健康を害するような化学物質は今後もう現れないのだろうか。

7 少子高齢社会の疾病対策

津下　一代
**(あいち健康の森健康科学総合センター長
兼 あいち介護予防支援センター長)**

世界でトップクラスの平均寿命を維持しているわが国であるが、生活習慣病はいまだ克服しておらず、一方でフレイル、認知症といった新たな課題に直面、医療費、介護給付費の増大に悩まされている。国は健康日本21、健診・保健指導、介護予防等、健康寿命延伸を目指した政策に加え、健康な環境づくり、健康行動へのインセンティブ賦与、データヘルス計画等の新たな動きを推進している。具体的な取り組み例をもとに、これからの健康対策について考えていきたい。

8 健康長寿と「攻めの栄養学」：抗酸化食品を中心に

大澤　俊彦(愛知学院大学心身科学部教授)

生活習慣病や認知症の発症を予防する一次予防、なかでも、バランスのとれた健全な食生活は最も重要な問題である。しかしながら、「健康長寿」の実現のためには、カロリー制限や塩分摂取の制限のような「守りの栄養学」だけでなく、積極的に「機能性食品因子」、特に、「抗酸化食品」を積極的に摂取する、いわゆる、「攻めの栄養学」が必要となる。本講義では、野菜や果物、さらには、発酵食品の持つ健康増進効果、特に、生活習慣病や認知症予防機能について最新のデータを中心に紹介する。

9 健康寿命の延伸：持続可能な高齢社会を目指して

下方　浩史(名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科教授)

日本は世界一の高齢化が進んだ国である。超高齢社会は高齢者が積極的に社会参画し、社会を支えていかなければ成り立たない。平均寿命が延びても健康寿命が延びなければ、支援や介護を要する高齢者が増えて社会的な負担が増加し、社会が崩壊してしまう。80歳でエベレスト登頂を果たした三浦雄一郎さん、高齢になっても元気な「ぎんさんの娘さん」たちの生き方を紹介するとともに、私たちが平成9年から行ってきた「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究（NILS-LSA）」から健康長寿の延伸を目指す研究を紹介する。